

Trimble SKY Controller Ver.1.1.0.0 アップデート概要

2016 年 10 月
株式会社 ニコン・トリンブル

いつも弊社製品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

本書では、Trimble SKY Controller Ver.1.1.0.0 で追加、変更された機能の概要を説明します。

■ 地理院地図表示

- ◆国土院が公開している地理院地図を背景とした現在地や観測点の表示が行えるようになりました。
- ◆スワイプによる地図のスクロールや、ピンチイン・ピンチアウトによる拡大・縮小表示など行えます。
- ◆ズームレベルは地理院タイル標準の 5～18 に加えて、デジタルズームによる 19～22 まで対応しています。
- ◆登録されている観測点などは種別ごとに表示レイヤが分けられていて、それぞれ表示 ON/OFF が行えます。

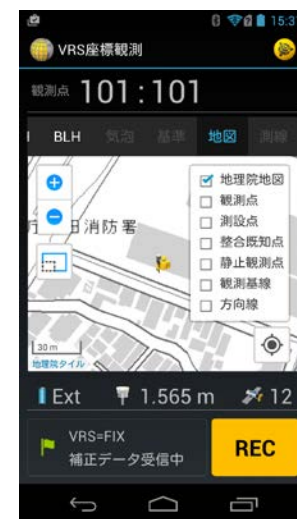
【地図表示タブ】



【地図全体表示】



【表示レイヤ切り替え】



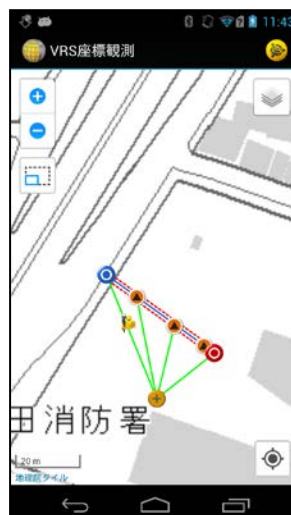
■ 測線観測

- ◆座標データから始点・終点を選択して、測線誘導を開始します。
- ◆あらかじめ複数の測線データを登録することができます。

【測線誘導画面】



【測線地図画面】

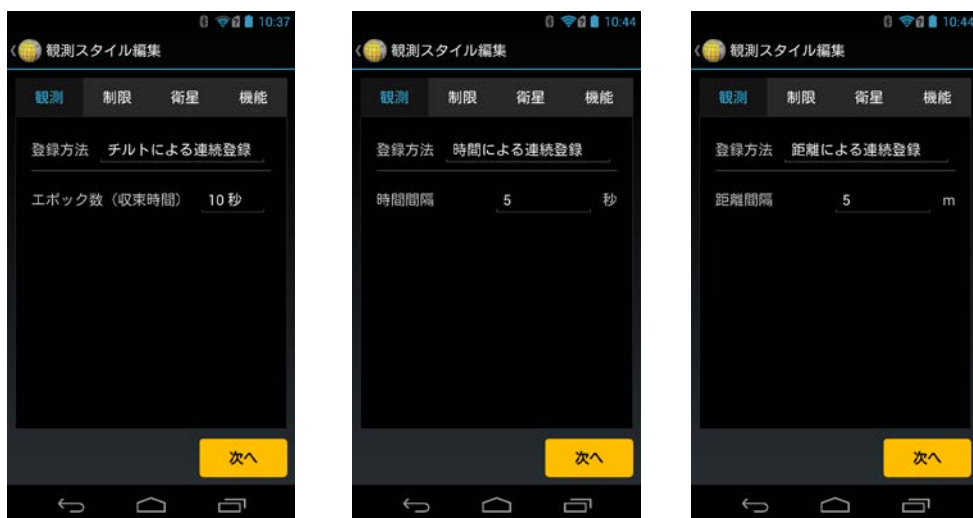


【測線リスト画面】



■ 観測データ REC 機能の拡張

◆R10 チルトを利用した自動観測、指定した時間や距離間隔での連続観測など様々な記録モードに対応しました。



◆「チルトによる連続登録」では REC ボタンをタップしてから電子気泡管が許容範囲に入ると、自動的に記録を開始します。



① FIX 後、REC ボタンをタップします。



② 受信機が整準されるまで待機します。

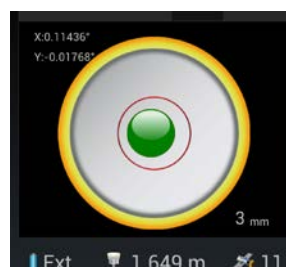
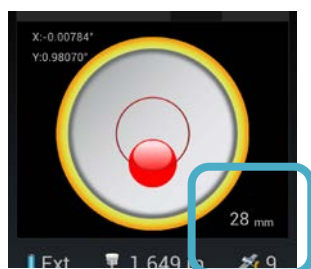


③ 傾きが許容範囲に入るとエポック観測を開始します。



④ 観測点を記録した後、次の観測に移ります。

電子気泡管の傾きとアンテナ高から算出した鉛直位置の離れ量を表示しました。
この離れ量と許容範囲との比較で気泡の色が変化します。



■ 非 FIX 解での REC

- ◆観測スタイルが「単点観測」もしくは「座標観測」のときは、非 FIX 解での登録が行えます。観測条件でスイッチを ON にして観測を開始すると、FIX していない状態でも REC ボタンがタップできるようになります。
(この場合 REC の文字が赤く表示され、エポック観測は行われません)



■ VRS/RTK 観測中のキネマティック同時観測

- ◆観測データの補助記録機能として、後処理用連続キネマティックの同時観測に対応しました。



■ 点検計算機能

- ◆ 環閉合点検では直接観測データから最小辺の環を自動作成し、較差計算を行うことができます。
- ◆ 準同時観測で同一始終点の間接基線を複数回観測した場合、較差計算を行うことができます。



■ VRS/RTK 単点観測案内

- ◆ 単点観測における初期化点の2セット観測を促す機能を観測スタイルで設定できるようにしました。
- ◆ また、同一グループで再測を行わないようにチェックする機能も観測スタイルで設定できるようにしました。



■ GNSS Plannning 機能

- ◆観測中に現在位置でのマルチ GNSS に対応した衛星配置予測を行えるようにしました。
- ◆軌道暦はネットワークからダウンロードし、最新の衛星状況を確認することができます。



■ スタティック観測機能追加

- ◆スタティックでの観測開始前に衛星と同期した時刻を表示するようにしました。



■ 有線ケーブル接続対応

◆USB シリアル変換ケーブル(RATOC SYSTEMS REX-USB60MB)を使用した有線接続に対応しました。



■ NMEA 出力機能アップ

◆NMEA 出力において出力可能フォーマットを追加しました。



以上